

## 基本編

### 安全な服装

(利用者用手引きでは取り上げていないテーマ)

#### ねらい

服装は、安全性等の観点から重要であることを理解させること。

#### ポイント

1. 服装は身体の保護、疲労の防止及び操作性の観点から重要であること。
2. 被視認性の観点からも重要であること。

#### 内容

次の事項について説明する。

1. 頭  
帽子を着用すること。特に夏場には、つばのある帽子を着用すること。
2. 身体  
季節に関係なく、長袖、長ズボンで、できるだけ明るい色(目立つ色)の服装を心がげること。  
特に、冬場は体温低下が疲労に結びつくため、防寒に留意すること。
3. 手  
手袋を使用する場合には、通気性がよく、指を動かしやすいものを使用すること。
4. 足  
下駄やハイヒールは避けること。



## 正しい姿勢

~利用者用手引き 15 頁 あなたの乗り方は...~

ねらい

電動車いすを利用する際の正しい姿勢を理解させること。

ポイント

正しい姿勢について再確認すること。

内容

乗り方と姿勢について次の事項を説明する。

二人乗りはしないこと。

車体から身体をはみ出させないこと。

シートに深く腰掛け、背もたれから背が離れないようにして座り、可動ひじ掛付きの場合は、ひじ掛けをきちんと下ろすこと。



乗り方、姿勢とは直接関係しないが、防犯に係る事項についても言及する。

かごに荷物を入れる場合は、ネット等を利用し、ひったくり対策を講じること。

買い物等で電動車いすから離れる場合は手動ブレーキ（駐車ブレーキ付の電動車いすは駐車ブレーキ）をかけ、必ずキーを抜いておくこと。

## 乗降と発進、走行、停止

~利用者用手引き 16 頁 乗降、発進、走行、停止のときは...~

### ねらい

正しい乗降等の基本について理解させること。

### ポイント

正しい乗降、発進、走行、停止の方法を再確認すること。

### 内容

正しい乗降の方法、安全な発進、走行、停止の方法を次の要領で再確認させる。

#### 1. 正しい乗り方

クラッチが「入」になっているか確認する。

駐車ブレーキ付の電動車いすは、駐車ブレーキが掛かっていることを確認する。

周囲が安全であるか確認する。

可動肘掛付の電動車いすは肘掛を上げ、お尻から乗り込み、後から足を載せ、肘掛を元の位置に戻す。

シートに深く腰掛け、背中がバックシートに当るように座る。

バックミラーの調整をする。



#### 2. 発進・走行

キーを差し込み、スイッチを入れる。

前後進切替スイッチ付の電動車いすは、スイッチを「前進」に入れる。

駐車ブレーキ付の電動車いすは、駐車ブレーキを解除する。

前後左右の安全を確認する。

ゆっくりとアクセルレバーを作動させる。

なお、電動車いすは走行音が小さいため、周りの人に気付かれにくいこともあわせて説明する。

### 3 . 停止

安全な停止場所を探す。

アクセルレバーをゆっくり戻す。急停止するときは、アクセルレバーを素早く戻す。

駐車ブレーキ付の電動車いすは、完全に停止してから駐車ブレーキをかける。キーを抜く。

### 4 . 正しい降り方

可動肘掛付の電動車いすは肘掛を上げる。

周囲の安全を確認する。

足から先に出し、地面に足が着いたら腰を上げて降りる。

なお、停止に係る項目として、電動車いすの制動距離を理解させるための指導もあわせて行うことが事故防止上有効である。

## 携帯電話の使用

~利用者用手引き 17 頁 携帯電話の使用は...~

### ねらい

電動車いす利用中における携帯電話の使用は危険であることを理解させること。

### ポイント

電動車いす利用中の携帯電話の使用は控えること。

### 内容

携帯電話の利用に関し、次の事項について説明する。

電動車いすを利用中に携帯電話を使用すると、片手でハンドルを操作することとなり、また、注意が散漫になることから危険であること。

安全な場所に停止し、キースイッチを切ってから携帯電話を使用すること。

携帯電話を携帯した方が、緊急時の通信手段として有用であること。



雨天時、傘を差しながら利用すると片手でハンドルを操作することになり危険なので、傘を差しながらの利用は控えること（雨天時にはレインコートを着用すること）もあわせて指導する。

## 飲酒等した上での利用

～利用者用手引き 18 頁 飲酒等した上での利用は...～

### ねらい

飲酒等した上で、電動車いすを利用すると操作を誤るなど、非常に危険であることを理解させること。

### ポイント

飲酒等した上での電動車いすの利用は絶対やめること。

### 内容

1．飲酒による影響に関する次の事項について説明し、飲酒した上での電動車いすの利用は絶対やめるよう指導する。

危険の感じ方が鈍くなること。

操作に支障を来すこと。

万一事故にあうと、生命への危険性が大きいこと。

2．このほか、次の事項についても言及する。

ビール3本程度の飲酒であっても、体内のアルコールが抜けきるまでに、8～9時間はかかるといわれていること。

(出典：「飲酒運転をめぐる意識と実態」 (財)国際交通安全学会 1987年)

飲酒による影響には個人差があること。

3．眠気を催す薬を飲んだときなども電動車いすの利用は控えるよう指導する。



## 坂道での通行

~利用者用手引き 19 頁 坂道で利用するときは...~

### ねらい

下り坂においてクラッチを切った状態で電動車いすを手押しなどすることは非常に危険であることを理解させること。

### ポイント

下り坂で電動車いすのクラッチを切った状態で手で押すなどすることは控えさせること。

### 内容

下り坂を通行する際には、自動ブレーキ(電磁ブレーキ)が確実に作動するように、電動車いすのクラッチを切らないよう指導する。



電動車いすのクラッチを切って手押し移動するときには、次の事項を守るよう指導する。

平坦な場所で行うこと。

電源スイッチは切っておくこと。

すぐに止まれるように手動ブレーキレバーに手をかけておくこと。

## 段差・溝の通行

~利用者用手引き 20 頁 段差や溝を安全に通過するには...~

### ねらい

利用者が通行する道路には、必ずといっていいほどいくつかの段差、溝等の障害物があるが、利用する電動車いすの種類により、これらの障害物を乗り越えること等ができない場合があることを理解させること。

### ポイント

段差、溝等の障害物を乗り越える場合等には、その障害物に対して必ず直角に進むこと。

### 内容

#### 1. 段差について、次の要領で通行するよう指導する。

乗り越えられる高さかどうかを確認する。可能と判断したら、段差の手前で最低の速度に設定する。

段差に対して、必ず直角に進入する。(斜め進入はバランスを崩し、転倒するおそれがある。)

段差を越えるとき、ハンドルを切らない。(ハンドルを切ると、転倒するおそれがある。)

段差を越えられないと判断したら、無理をしないでう回する。



#### 2. 溝について、次の要領で通行するよう指導する。

通過できる幅かどうかを確認する。可能と判断したら、溝の手前で最低の速度に設定する。

溝に対して、必ず直角に進入する。(斜め進入はバランスを崩し転倒するおそれがある。)

溝を通過するとき、ハンドルを切らない。(ハンドルを切ると、車輪が挟まるおそれがある。)

溝を通過できないと判断したら、無理をしないでう回する。



## 傾斜地（斜面）の通行

～利用者用手引き 21 頁 傾斜地で利用するときには...～

ねらい

傾斜地の正しい通行方法を習得させること。

指導ポイント

身体を斜面の高い方に傾けてバランスをとること。



内容

次の要領で通行するよう指導する。

通行できる傾斜かどうかを確認する。

通行中は、身体を斜面の高い方に傾ける。（低い方に傾けると転倒するおそれがある。）

緩やかな傾斜であっても、両手でハンドルをしっかり握る。

傾斜が急であるため、利用する電動車いすでは通行できない場合には、他の道路にう回する。